

常盤松御用邸（東京都渋谷区）の庭園のクモ

小野展嗣¹⁾・新海栄一²⁾

Hirotsugu Ono¹⁾ and Eiichi Shinkai²⁾: Spiders from Gardens of the Tokiwamatsu Imperial Villa,
Shibuya-ku, Tokyo, Japan (Arachnida, Araneae)

はじめに

常盤松御用邸は、東京都の中心部の一隅を形成する渋谷区の至便の市街地にある。現在の敷地の総面積は約2万平方メートルあって、その庭園は一户の邸宅の庭園としては都心部でもっとも広いもののひとつである。庭園内にはコナラ、スダジイ、クスノキの大木を中心にした林があるほか、ウメやモモなどの果樹が植えられ、また池も存在する。民間でこのように広い庭園を維持することはひじょうに困難なことであるので、御用邸の庭園は、大都市のコンクリート・ジャングルのなかに点在する緑地のクモ相を研究する上で極めて貴重な環境だといえることができる。

現在の御用邸のある場所は、江戸時代、大名の下屋敷や武家屋敷が連なる土地であったが、1882年（明治15年）に当時の宮内省が渋谷村常盤松およびその周辺一帯を買い上げて御料地となった。その後、東伏見宮家の御使用、東宮仮御所を経て、1963年（昭和38年）に義宮御殿となり、1976年（昭和51年）には現在の常盤松御用邸が新築竣工したとのことである（阿部, 2005）。その間の歴史的な土地の利用や、自然環境についてある程度の資料が残っているということも、都市における市街化と動物相の関係を研究する上で、たいへん重要なことであろうと思われる。

筆者らは幸運にも御用邸の庭園内のクモ類の調査あるいは研究をする機会に恵まれ、そこで得られた約400個体の標本に基づいて64種のクモの生息を確認することが出来た。

東京都の都心部（ここでは山手線沿いおよびその内側の地域を示す）の大規模緑地としては、これまで、皇居（新海, 1977a; 小野, 2000, 2001b）、赤坂御用地（小野, 2005）、国立科学博物館附属自然教育園（山川・久居, 1975; 新海, 1981b; 小野・新海, 2001; 小野, 2001a）、日比谷公園（新海, 1998）、上野公園（小野・水山, 2001）などのクモ相がほぼ判明している。また東京都全体のクモ相については新海による永年の研究の蓄積がある（新海, 1969, 1970, 1977b, 1978, 1979, 1980, 1981a）。それらの知見と比較することで、常盤松御用邸の庭園のクモ相の特性についてある程度知ることができたのでここに報告する。

本論へ入る前に、本研究の機会を与えて下さった常陸宮正仁親王殿下に心からの御礼を申し上げます。また、種々お世話をいただいた宮内庁庭園課をはじめ担当部局の各位、土壌性クモ類の抽出をお願いした鶴見女子高等学校の高野光男氏、また国立科学博物館の大和田守、友国雅章、野村周平、吉田倫子の各氏のご協力に対し感謝する。

¹⁾ 国立科学博物館動物研究部 東京都新宿区百人町3-23-1

Department of Zoology, National Science Museum, Tokyo, 3-23-1 Hyakunin-cho, Shinjuku-ku, Tokyo, 169-0073 Japan

E-mail: ono@kahaku.go.jp

²⁾ シンカイ写真館 東京都国分寺市本多1-6-6

1-6-6 Honda, Kokubunji-shi, Tokyo, 185-0011 Japan

調査の概要および研究方法

新海は、常陸宮殿下が1977年(昭和52年)5月, 6月および1981年(昭和56年)7月に御採集のクモ4個体を同定した。また, 1977年(昭和52年)6月, 1978年(昭和53年)10月, 2002年(平成14年)5月, 7月, 9月に調査を行ない, 御用邸の庭園の定められた場所の, 地中, 落葉, 水辺, 草本上, 樹木の枝葉上, 樹皮下, 建造物の外壁など多様な生息環境から, おもに「みつけ採り法」によって約200個体のクモを採集した。ただし, 個体数が多い種ではすべてを捕獲しなかったものもある。それらの標本は, 自宅の研究室に持ち帰り同定した。

また, 小野は, 常陸宮殿下が2002年9月に御採集の標本(1個体), 大和田守氏が2002年(平成14年)7月から2003年(平成8年)8月にかけて連続して行なったマレーズトラップ(飛翔性昆虫捕獲トラップ)による採集品(108個体), 野村周平氏が2003年3月および2004年6月に行なったツルグレン装置を用いた土壌動物の抽出によって得られた標本(71個体)および友国雅章氏による昆虫類の調査(2004年5月)の際に得られた標本(11個体)の合計約190個体のクモの同定を行なった。

現地で採集されたクモは, すべて70-75%エチルアルコールで固定され, 国立科学博物館および新海の自宅において保管する。

調査結果

得られた標本は以下の目録のとおり64種に同定された。未成熟なために, 種名を確定できなかったワシグモ科の1種(幼虫1個体)は除外した。採集記録には, 採集年月日, 採集者および必要に応じて採集方法を記した。なお, マレーズトラップを用いて採集された標本の採集年月日は資料を回収した日とした。また, クモの発育段階は昆虫にならって幼虫, 成虫という言葉を用い(小野, 2002), 幼虫の中でも比較的高齢で成虫の1歩手前のものは, 未成熟♀, 未成熟♂と記述した。

常盤松御用邸庭園のクモ類目録

クモ目 Araneae

トタテグモ科 Ctenizidae

1. キシノウエトタテグモ *Latouchia typica* (Kishida, 1913)

2♀, 3幼虫, 23-V-2002, 2幼虫, 26-VII-2002, 新海; 13幼虫, 1-IV-2003, 1幼虫, 15-IV-2003, 1幼虫, 28-IV-2003, 1幼虫, 13-V-2003, マレーズトラップ, 大和田; 5幼虫, 31-III-2003, 2幼虫, 24-VI-2004, ツルグレン, 野村。

ジグモ科 Atypidae

2. ジグモ *Atypus karschii* Dönitz, 1887

3幼虫, 12-VI-1977, 1♀, 3幼虫, 23-V-2002, 3幼虫, 26-VII-2002, 新海。

エンマグモ科 Segestriidae

3. ミヤグモ *Ariadna lateralis* (Karsch, 1881)

4幼虫, 12-VI-1977, 5幼虫, 23-V-2002, 新海。

ハグモ科 Dictynidae

4. ネコハグモ *Dictyna felis* Bösenberg et Strand, 1906

- 1♀, 23-V-2002, 1♀, 26-IX-2002, 新海; 1幼虫, 15-VIII-2002, マレーズトラップ, 大和田.
 5. ヤマトカレハグモ *Lathys maculosa* (Karsch, 1879)
 1♀, 12-VI-1977, 1幼虫, 7-X-1978, 新海
 6. ナシジカレハグモ *Brommella punctosparsa* (Oi, 1957)
 1♀, 23-V-2002, 1未成熟♂, 26-IX-2002, 新海.

ウズグモ科 Uloboridae

7. カタハリウズグモ *Octonoba sybotides* (Bösenberg et Strand, 1906)
 1♀, 23-V-2002, 1幼虫, 26-IX-2002, 新海; 1♀, 27-V-2004, 友国.
 8. マネキグモ *Miagrammopes orientalis* Bösenberg et Strand, 1906
 1幼虫, 23-V-2002, 新海.

チリグモ科 Oecobiidae

9. チリグモ *Oecobius Uavus* Blackwall, 1859
 1♀, VII-1981, 常陸宮殿下; 1幼虫, 26-IX-2002, 新海.

ヒラタグモ科 Urocteidae

10. ヒラタグモ *Uroctea compactilis* L. Koch, 1878
 1幼虫, 12-VI-1977, 1♀, 1幼虫, 23-V-2002, 新海.

タナグモ科 Agelenidae

11. クサグモ *Agelena limbata* Thorell, 1879
 1幼虫, 12-VI-1977, 2幼虫, 23-V-2002, 新海.
 12. コクサグモ *Agelena opulenta* L. Koch, 1878
 3幼虫, 12-VI-1977, 4幼虫, 23-V-2002, 新海; 1♀, 11-XI-2002, マレーズトラップ, 大和田;
 1幼虫, 27-V-2004, 友国.
 13. コタナグモ *Cicurina japonica* (Simon, 1886)
 1♀, 23-V-2002, 新海.
 14. メガネヤチグモ *Paracoelotes luctuosus* (L. Koch, 1878)
 1幼虫, 12-VI-1977, 1♀, 23-V-2002, 1幼虫, 26-IX-2002, 新海.

コモリグモ科 Lycosidae

15. ハラクロコモリグモ *Lycosa coelestis* L. Koch, 1878
 1幼虫, 7-X-1978, 1♀, 2幼虫, 26-IX-2002, 新海.
 16. ウヅキコモリグモ *Pardosa astrigera* L. Koch, 1878
 1未成熟♂, 2幼虫, 26-VII-2002, 2幼虫, 26-IX-2002, 新海.
 17. ハリゲコモリグモ *Pardosa laura* Karsch, 1879
 1♀, 23-V-2002, 1♀, 1♂, 26-IX-2002, 新海.

ササグモ科 Oxyopidae

18. ササグモ *Oxyopes sertatus* L. Koch, 1878
 3幼虫, 23-V-2002, 2幼虫, 26-IX-2002, 新海; 1幼虫, 25-XI-2002, マレーズトラップ, 大和田; 1幼虫, 27-V-2004, 友国.

ヒメグモ科 Theridiidae

19. ハンゲツオスナキグモ *Steatoda cingulata* (Thorell, 1890)
3 幼虫, 31-III-2003, ツルグレン, 野村.
20. スネグロオチバヒメグモ *Stemmops nipponicus* Yaginuma, 1969
1♀, 1♂, 12-VI-1977, 新海; 1♀, 1 未成熟♂, 31-III-2003, 1♀, 24-VI-2004, ツルグレン, 野村;
1 幼虫, 8-VII-2003, マレーズトラップ, 大和田.
21. ハイイロヒメグモ *Paidiscura subpallens* (Bösenberg et Strand, 1906)
1♀, 23-V-2002, 新海.
22. ムナボシヒメグモ *Keijia sterninotata* (Bösenberg et Strand, 1906)
1♀, 12-VI-1977, 新海; 2♀, 15-VIII-2003, 1 幼虫, 6-I-2003, 1 幼虫, 28-IV-2003, 1 幼虫, 30
-V-2003, 1♀, 4-VI-2003, 1♂, 15-VII-2003, 1♂, 22-VII-2003, マレーズトラップ, 大和田; 1 未
成熟♂, 27-V-2004, 友国.
23. サトヒメグモ *Keijia mneon* (Bösenberg et Strand, 1906)
1♀, 26-VII-2002, 新海.
24. オオヒメグモ *Achaearanea tepidariorum* (C. Koch, 1841)
3♀, 1 幼虫, 12-VI-1977, 1♀, 4 幼虫, 23-V-2002, 2♀, 26-IX-2002, 新海; 1 幼虫, 22-VII-2003,
2 幼虫, 29-VII-2003, マレーズトラップ, 大和田.
25. カグヤヒメグモ *Achaearanea culicivora* (Bösenberg et Strand, 1906)
1♀, 2 幼虫, 12-VI-1977, 1♀, 23-V-2001, 2♀, 26-IX-2002, 新海.
26. ヒメグモ *Achaearanea japonica* (Bösenberg et Strand, 1906)
2 幼虫, 12-VI-1977, 3 幼虫, 23-V-2002, 新海; 1 未成熟♂, 22-VII-2003, マレーズトラップ,
大和田.
27. コアカクロミジグモ *Yaginumena mutilata* (Bösenberg et Strand, 1906)
1 幼虫, 23-V-2002, 新海.

ホラヒメグモ科 Nesticidae

28. コホラヒメグモ *Nesticella brevipes* (Yaginuma, 1970)
1♀, 23-V-2002, 1♂, 26-IX-2002, 新海; 2♀, 24-VI-2004, ツルグレン, 野村.

サラグモ科 Linyphiidae

29. スガナミヤマジコナグモ *Tapinocyba suganamii* Saito et Ono, 2001
1♀, 23-V-2002, 2♀, 2 幼虫, 26-VII-2002, 新海.
30. タテヤマテナガグモ *Bathyphantes tateyamaensis* (Oi, 1960)
2♀, 1 幼虫, 23-V-2002, 1 幼虫, 26-IX-2002, 新海; 1♀, 1♂, 24-VI-2004, ツルグレン, 野村.
31. ヘリジロサラグモ *Neriere oidedicata* Helsdingen, 1969
1♀, 1 幼虫, 23-V-2002, 1♀, 26-IX-2002, 新海.

アシナガグモ科 Tetragnathidae

32. アシナガグモ *Tetragnatha praedonia* L. Koch, 1878
3 幼虫, 23-V-2002, 新海.

ジョロウグモ科 Nephilidae

33. ジョロウグモ *Nephila clavata* L. Koch, 1878
2 幼虫, 12-VI-1977, 新海.

コガネグモ科 Araneidae

34. オニグモ *Araneus ventricosus* (L. Koch, 1878)
1 幼虫, 12-VI-1977, 1 幼虫, 23-V-2002, 新海.
35. サツマノミダマシ *Neoscona scylloides* (Bösenberg et Strand, 1906)
2 幼虫, 12-VI-1977, 新海; 1 幼虫, 17-VI-2003, マレーズトラップ, 大和田; 1 幼虫, 27-V-2003, 友国.
36. ギンメッキゴミグモ *Cyclosa argenteoalba* Bösenberg et Strand, 1906
2♀, 23-V-2002, 2♀, 2 幼虫, 26-IX-2002, 新海.

エビグモ科 Philodromidae

37. アサヒエビグモ *Philodromus subaureolus* Bösenberg et Strand, 1906
1♀, 1♂, 12-VI-1977, 2 幼虫, 23-V-2002, 5 幼虫, 26-IX-2002, 新海; 1 幼虫, 15-VIII-2002, 3 幼虫, 30-VIII-2002, 2 幼虫, 6-XII-2002, 7 幼虫, 24-XII-2002, 2 幼虫, 6-I-2003, 4 幼虫, 1-IV-2003, 1 幼虫, 15-IV-2003, 1 未成熟♀, 13-V-2003, 1 幼虫, 4-VI-2003, 1♀, 1♂, 10-VI-2003, 1♀, 1♂, 17-VI-2003, 1♀, 1♂, 24-VI-2003, 2♀, 1♂, 1-VII-2003, マレーズトラップ, 大和田.
38. キンイロエビグモ *Philodromus auricomus* L. Koch, 1878
1 幼虫, 26-VII-2002, 2 幼虫, 26-IX-2002, 新海; 2 未成熟♂, 27-V-2004, 友国.
39. キハダエビグモ *Philodromus spininarsis* Simon, 1895
1♀, 23-V-2002, 新海; 1♂, 4-VI-2003, マレーズトラップ, 大和田.
40. シャコグモ *Tibellus japonicus* Efimik, 1999
1 幼虫, 21-V-1977, 常陸宮殿下; 2 幼虫, 2-VI-1977, 3 幼虫, 23-V-2002, 3 幼虫, 26-IX-2002, 新海; 1 幼虫, 26-IX-2003, 1 幼虫, 28-IV-2003, 1 幼虫, 17-VI-2003, 1 幼虫, 8-VII-2003, マレーズトラップ, 大和田.

カニグモ科 Thomisidae

41. ワカバグモ *Oxytate striatipes* L. Koch, 1878
1 幼虫, 7-X-1978, 1 幼虫, 23-V-2002, 新海; 1 幼虫, 15-VIII-2002, 1 未成熟♂, 15-IV-2003, 1♀, 24-VI-2003, マレーズトラップ, 大和田; 1♀, 27-V-2004, 友国.
42. コカニグモ *Coriarachne fulvipes* (Karsch, 1879)
1 幼虫, 27-V-2004, 友国.
43. ヤミイロカニグモ *Xysticus croceus* Fox, 1937
1 幼虫, 26-VII-2002, 1 幼虫, 26-IX-2002, 新海; 1 幼虫, 26-IX-2002, 1♂, 4-VI-2003, 2♂, 17-VI-2003, 1♂, 8-VII-2003, マレーズトラップ, 大和田.
44. マツモトオチバカニグモ *Oxyptila matsumotoi* Ono, 1988
2♀, 1 幼虫, 23-V-2002, 1 未成熟♂, 3 幼虫, 26-VII-2002, 新海; 1 幼虫, 26-IX-2002, マレーズトラップ, 大和田; 12♀, 4 未成熟♀, 9 幼虫, 31-III-2003, 5♀, 3♂, 2 未成熟♀, 4 幼虫, 24-VI-2004, ツルグレン, 野村.
45. アマギエビスグモ *Lysiteles coronatus* (Grube, 1861)

- 1 未成熟♂, 1-IV-2003, マレーズトラップ, 大和田.
 46. ハナグモ *Misumenops tricuspидatus* (Fabricius, 1775)
 1♀, 23-V-2002, 新海.
 47. クマダハナグモ *Misumenops kumadai* Ono, 1985
 1♀, 15-IV-2003, マレーズトラップ, 大和田.
 48. コハナグモ *Diaea subdola* O. Pickard-Cambridge, 1885
 1 未成熟♀, 13-V-2003, マレーズトラップ, 大和田.
 49. アズチグモ *Thomisus labefactus* Karsch, 1881
 1 幼虫, 7-X-1978, 1 幼虫, 26-IX-2002, 新海.

ウエムラグモ科 Liocranidae

50. イタチグモ *Itatsina praticola* (Bösenberg et Strand, 1906)
 3 幼虫, 12-VI-1977, 2 幼虫, 23-V-2002, 3 幼虫, 26-IX-2002, 新海; 1♀, 14 幼虫, 31-III-2003,
 ツルグレン, 野村.
 51. オトヒメグモ *Orthobula crucifera* Bösenberg et Strand, 1906
 1♀, 12-VI-1977, 1 幼虫, 7-X-1978, 新海; 1♀, 31-III-2003, ツルグレン, 野村.
 52. ウラシマグモ *Phrurolithus nipponicus* Kishida, 1914
 2♀, 7-X-1978, 2 幼虫, 23-V-2002, 新海.
 53. ヤバネウラシマグモ *Phrurolithus pennatus* Yaginuma, 1969
 3♀, 1♂, 2 幼虫, 12-VI-1977, 新海.

フクログモ科 Clubionidae

54. ヤハズフクログモ *Clubiona jucunda* (Karsch, 1879)
 1♂, 1 幼虫, 15-VIII-2002, 1 幼虫, 25-XI-2002, 1♂, 17-VI-2003, マレーズトラップ, 大和田.

ネコグモ科 Corinnidae

55. ネコグモ *Trachelas japonicus* Bösenberg et Strand, 1906
 1 幼虫, 12-VI-1977, 1♀, 23-V-2002, 新海; 1♂, 13-V-2003, 1♂, 4-VI-2003, マレーズトラッ
 プ, 大和田.

ハエトリグモ科 Salticidae

56. マミジロハエトリ *Evarcha albaria* (L. Koch, 1878)
 1 幼虫, 23-V-2002, 1♂, 26-IX-2002, 新海; 1♀, 12-IX-2002, 常陸宮殿下; 1♀, 10-VI-2003,
 1♂, 1-VII-2003, マレーズトラップ, 大和田.
 57. ネコハエトリ *Carrhotus xanthogramma* (Latreille, 1819)
 1♂, 2 幼虫, 23-V-2002, 新海.
 58. デーニッツハエトリ *Plexippoides doenitzi* (Karsch, 1879)
 1 未成熟♂, 2 幼虫, 15-VIII-2002, 1 幼虫, 30-VIII-2002, 1 幼虫, 28-IV-2003, 1♂, 10-VI-2003,
 マレーズトラップ, 大和田.
 59. チャイロアサヒハエトリ *Phintella abnormis* (Bösenberg et Strand, 1906)
 1 幼虫, 23-V-2002, 4 幼虫, 26-IX-2002, 新海; 1♀, 2 幼虫, 30-VIII-2002, 1 幼虫, 1-IV-2003,
 1 幼虫, 4-VI-2003, 1♂, 24-VI-2003, 1 幼虫, 29-VII-2003, マレーズトラップ, 大和田; 1 未成熟
 ♂, 27-V-2004, 友国.

60. マガネアサヒハエトリ *Phintella arenicolor* (Grube, 1861)
1♂, 12-VI-1977, 1♀, 7-X-1978, 新海.
61. アダンソンハエトリ *Hasarius adansoni* (Audouin, 1827)
1♂, 12-VI-1977, 常陸宮殿下; 1♀, 2-VI-1977, 1♀, 26-IX-2002, 新海.
62. ミスジハエトリ *Plexippus setipes* Karsch, 1879
1♀, VII-1981, 常陸宮殿下.
63. エキスハエトリ *Laufeia aenea* Simon, 1888
1 幼虫, 23-V-2002, 新海.
64. マツモトハエトリ *Bristowia heterospinosa* Reimoser, 1934
1♀, 31-III-2003, ツルグレン, 野村.

考察および特筆すべき種

阿部 (2005) の記述などから、常盤松御用邸の約 400 年間にわたる環境の変遷を推定してみると以下のように 5 つの局面が考えられる。

1) 常緑広葉樹林: 江戸開幕以前は、東京湾の海岸線から遠くない低い台地 (標高 3-40 m) が広がり、本来の環境は常緑広葉樹林で、川沿いには湿地、草原が広がっていたと推測される (小野, 2000)。

2) 第 1 次市街化 (約 200 年間): 江戸時代には大名の下屋敷や武家屋敷が連なる (御用邸の辺りは、1658 年以来織田家下屋敷として続いたが、1808 年越後村上藩内藤家に編入された)。その後の江戸切絵図 (1853) によると、東隣、西北隣、北隣は稲葉長門守邸ほかの武家屋敷、また南側から西側にかけては吸江寺、金王八幡宮を始めとする寺といくつかの下屋敷が散在するほか、ほとんど田畑が渋谷川を挟んで広がっていたという。これに似た環境は現在では都心から電車で 1-2 時間行った里山を想像させる。樹木が燃料に使われたこともあり、林はすでに連続したものではなくなっていたと考えられる。

3) 養蚕、製茶、牧場としての土地利用 (約 40 年間): 明治維新の後 1882 (明治 15) 年、宮内省は当時桑畑または茶畑だった常盤松周辺を買い上げて御料地とし、周辺住民に貸し付けて養蚕製茶等を経営させた。明治時代の後半には民間への払い下げなどで土地の細分化が起り、御料地として残ったのは常盤松だけとなった。1900 (明治 33) 年から 1923 (大正 13) 年までの 25 年間は御料乳牛場となった。

4) 第 2 次市街化 (約 20 年間): 周辺に人家が密集するようになったため牧場は 1923 (大正 13) 年に他へ移転し、その年から 1946 (昭和 21) 年まで東伏見宮家のご使用となった。もともと牧場内の樹林であったところが庭園として利用されたと推定され、現在の御用邸の土地利用の原形ができたと考えられる。

5) 第 3 次市街化 (約 50 年間): 同地は 1950 (昭和 25) 年東宮仮御所となり、1963 (昭和 38) 年には義宮御殿となる。そして、1976 (昭和 51) 年秋に現在の常盤松御用邸が新築竣工して現在に至る。現在の庭園は、極めて高度な造園管理のもと、スタジイやクスノキなどの樹林や御内庭の池とその周辺の果樹など、変化に富んだ環境になっているが、ビルが連なる周辺との自然度のコントラストはいよいよ強くなっている。

以上の過程をクモ学の視点からみると、自然状態の常盤松御用邸周辺にはおそらく 200 ないし 250 種のクモが生息していたと考えられる。江戸時代の土地利用では、今日の里山の状況や当時の衛生状態から推察して、クモの餌となる昆虫が豊富だったと思われるので、消失した種はせいぜい 1 割程度だろう。クモ相にとってもっとも打撃が大きかったと推測されるのは、明治以後の茶畑や牧場としての利用と、土地の細分化による周辺の激しい市街化により広い庭園や空き地などが減少した



図1-3. 都心部では珍しいクモ3種。 — 1. ナシジカレハグモ *Brommella punctosparsa* (Oi, 1957), ♀, 体長2 mm; 2. アマギエビスグモ *Lysiteles coronatus* (Grube, 1861), ♀, 体長3 mm; 3. マツモトハエトリ *Bristowia heterospinosa* Reimoser, 1934, ♂, 体長3 mm. [常盤松以外で採れたものを含む; 新海撮影.]

ことと思われる。その結果、昭和の初期にはすでに現在と同じような種構成になっていたと想像される。

今回得られた 64 種のクモ類を、これまで知られている東京都心のクモ類と比較してみると、97%にあたる 62 種がすでに都心部のいずれかの緑地から記録のあるものであった。また、新海 (1998) の提唱する自然環境指標種は C ランクの 3 種 (コアカクロミジグモ、アマギエビスグモ、エキスハエトリ) しかなく、一方、都市環境指標種が 12 種あって、環境指数の 19.7 という数字はかなりの「悪化」を意味している。しかし、これは皇居や赤坂御用地、自然教育園などの調査より採集個体数が少ないことに起因していると思われる。いずれにしても、庭園の広さは、自然教育園の 10 分の 1、皇居の 50 分の 1 しかないのに、種の多様性に乏しいのはやむを得ないところであるが、皇居をはじめ都心の緑地のいずれでも採集されていないクモが 2 種 (アマギエビスグモおよびマツモトハエトリ) 得られたことは興味深い。またナシジカレハグモも比較的採集頻度の低いクモである。以下に、これら 3 種の特筆すべきクモについて若干の解説を加えたい。

ナシジカレハグモ *Brommella punctosparsa* (Oi, 1957) [図 1]

本種は、1955 年に大井良次によって、広島県豊田群高坂村 (現在の三原市高坂町許山) にある仏通寺というお寺で発見され、1957 年に新種として記載されたものである。現在では本州南西部、四国、九州に広く分布することがわかってきているが、採集記録は多くなく、東京都では、これまで、目白にある学習院の森 [小野が採集した標本に基づき新海 (1970) が報告]、檜原村神戸第 1 洞 (新海、未発表) および八丈島 (小野, 2001c) の記録があるのみである。土壌中の隙間や落ち葉の間などに生息するが、網型などの生態や生活史はまったくわかっていない。また、完性域類としては珍しく 6 眼を有し、特異な生殖器の構造とともに分類学的にも興味深いクモであるということが言える (Ono, 2003)。

アマギエビスグモ *Lysiteles coronatus* (Grube, 1861) [図 2]

本種は、1931 年に北海道の空沼で採集された標本 (♂) に基づいて *Oxyptila nigrifrons* Saito, 1934 (クロハナグモモドキ)、また 1930 年に同じく北海道の札幌市で採集された標本 (♀) に基づいて *Xysticus sapporensis* Saito, 1934 (エゾカニグモ) というように、斎藤三郎 (Saito, 1934) によって同じ論文中に雌雄別々の名前で命名されたのが日本での最初の記録である。これとは別に、植村利夫 (1937) は、高島春雄によって天城山で採られた標本をもとにアマギエビスグモ *Oxyptila takashimai* Uyemura, 1937 と命名した。その後、本種は日本のみならずロシア (シベリア)、韓国、中国にも広く分布することがわかり、所属もまったく異なり、学名もすでにシベリアから記載された *Lysiteles coronatus* (Grube, 1861) (原記載は *Thomisus*) に先取されていることが判明した (Ono, 1985, 1988)。我が国では北海道から屋久島まで、広域に分布するクモであるが、本州以南では山地の比較的自然がよく保たれたところに生息していて、平地、とくに市街地では極めて稀である。もともと東京の都心にも生息していたものが生き残っているものか、植物などについて持ち込まれたものかはわからないが、この記録は特筆すべきものである。

マツモトハエトリ *Bristowia heterospinosa* Reimoser, 1934 [図 3]

本種は南方系の 1 種で、原記載は、インドネシアのクラカタウ島産の標本に基づいてなされた。その後、ベトナム、中国南部 (雲南、貴州、湖南)、韓国でも見つかり、広く分布する種であることがわかった。我が国では、松本 (1986) が種名未確定のまま東亜蜘蛛学会の大会で口頭発表してその存在を明らかにした。印刷された記録には残っていないが、静岡県沼津市の学習院遊泳場 (1♀, 14-VII-1969, 小野採集, 松本氏同定) が最初ではないかと思われる。その後、池田 (1995) によってこの種であることが確かめられた。これまで、神奈川県、東京都 (荒川河岸、日比谷公園、伊豆諸島)、愛知県、岡山

県、広島県、西表島などから記録があり、関東地方はこの種の北限域と考えられる。全体的にも稀な種で、都心で採集されたことはひじょうに興味深い。

Summary

The spider-fauna of Tokiwamatsu Imperial Villa, Tokyo, was investigated in the years 1977–1978 and 2002–2004 mainly by extractions with Tullgren Funnel and Malaise trapping as well as by collecting with hands. About 400 specimens of spiders collected from various places in the gardens of the Villa were classified into 64 species of 22 families. The whole site of the Villa covers at present an area of about 20,000 square meters in Shibuya-ku Ward, in the center of Tokyo. The surroundings of the area were already urbanized in Edo Era since 17th Century and damaged through tea plantation, silk growing and pasturing cattle in the Meiji and the Taisho Era between 1882 and 1923. After that, however, the area has been used for the Villa of Imperial Families and the gardens are kept in nature under gardening care. Almost all (97%) of the recorded species are common with those of other green areas in Tokyo city center as the gardens of the Imperial Palace, with the exceptions of a crab spider *Lysiteles coronatus* and a jumping spider *Bristowia heterospinosa*. Notes on these spiders and a relatively rare species *Brommella punctisparsa* (Dictynidae) are given.

引用文献

- 阿部宗広, 2005. 赤坂御用地と常盤松御用邸の変遷. 国立科学博物館専報, (39): 7–11.
- Grube, A. E., 1861. Beschreibung neuer, von Herren L. v. Schrenck, Maack, C. v. Ditmar u. a. im Amurlande und in Ostsibirien gesammelter Arachniden. *Bull. Acad. imp. Sci. S.-Petersb.*, **4**: 161–180.
- Ikeda, H., 1995. Two poorly known species of salticid spiders from Japan. *Acta arachn.*, **44**: 159–166.
- 松本誠治, 1986. 日本新記録属 *Bristowia* 属のハエトリグモの紹介. *Atypus*, (87): 27.
- 大井良次, 1957. 仏通寺産の蜘蛛三種及び一新種. *Acta arachn.*, **14**: 45–50.
- Ono, H., 1985. Revision einiger Arten der Familie Thomisidae (Arachnida, Araneae) aus Japan. *Bull. natn. Sci. Mus., Tokyo*, (A), **11**: 19–39.
- Ono, H., 1988. A revisional study of the spider family Thomisidae (Arachnida, Araneae) of Japan. *Natn. Sci. Mus. Monogr., Tokyo*, (5): i–ii, 1–252, 1 pl.
- 小野展嗣, 2000. 皇居の庭園と濠のクモ. 国立科博専報, (35): 127–145.
- 小野展嗣, 2001a. 自然教育園の自然生態系特別調査, 3. 自然教育園のクモ相. 国立科博ニュース, (385): 10–11.
- 小野展嗣, 2001b. 皇居を彩る名脇役の調査, 東京の都心に網を張るクモ. 国立科学博物館皇居生物相調査グループ編: 皇居・吹上御苑の生き物, pp. 188–195. 世界文化社, 東京.
- 小野展嗣, 2001c. 伊豆諸島のクモ類. 国立科博専報, (37): 261–277.
- 小野展嗣, 2002. クモ学. 摩訶不思議な八本足の世界. xiii+224pp. 東海大学出版会, 東京.
- Ono, H., 2003a. A new dictynid spider from Iriomotejima Island, Southwest Japan, with a list of Japanese species of the genera *Lathys* and *Brommella* (Arachnida, Araneae). *Bull. natn. Sci. Mus., Tokyo*, (A), **29**: 7–13.
- 小野展嗣, 2003b. クモ類. 松浦啓一編: 標本学, 自然史標本の収集と管理, pp. 78–88. 東海大学出版会, 秦野市.
- 小野展嗣, 2005. 赤坂御用地のクモ. 国立科博専報, (38): 439–453.
- Reimoser, E., in Reimoser, E., & W. S. Bristowe, 1934. The spiders of Krakatau. *Proc. zool. Soc. Lond.*, **1934**: 11–18.
- Saito, S., 1934. Spiders from Hokkaido. *J. Fac. Agr. Hokkaido imp. Univ., Sapporo*, **33**: 267–362.
- 新海栄一, 1969. 東京都産真正蜘蛛類. 65 pp., pls. 1–10. 東亜蜘蛛学会, 大阪.
- 新海栄一, 1970. 東京都産真正蜘蛛類 (II). *Atypus*, (54): 21–26.
- 新海栄一, 1977a. 皇居内の土壌性クモ類. *Edaphologia*, (16): 26–34, pl. 2.
- 新海栄一, 1977b. 東京都産真正蜘蛛類 III. *Acta arachn.*, **27**(special number): 321–336, pls. 1–2.
- 新海栄一, 1978. 生物環境研究会報告, V. 八王子市のクモ, 1. リストおよび分布. 日本私学教育研究所調

- 査資料, (56): 79-109, 1-17 図版.
- 新海栄一, 1979. 生物環境研究会報告, V. 八王子市のクモ, 2. 生活型と網型について. 日本私学教育研究所調査資料, (64): 65-78, 1-14 図版.
- 新海栄一, 1980. 生物環境研究会報告, V. 八王子市のクモ, 3. 特定の環境に生息するクモ類. 日本私学教育研究所調査資料, (72): 45-56.
- 新海栄一, 1981a. 生物環境研究会報告, V. 八王子市のクモ, 4. 特定の環境に生息するクモ類(続)およびリストの追加. 日本私学教育研究所調査資料, (81): 45-58.
- 新海栄一, 1981b. 自然教育園の蜘蛛類. 自然教育園報告, (12): 97-100.
- 新海栄一, 1998. クモ類による環境の評価. *Kishidaia*, (74): 33-100.
- 植村利夫, 1937. 伊豆天城山産 2 新蜘蛛の記載. *Acta arachn.*, 2: 150-156, pls. 9-10.
- 山川 守・久居宣夫, 1975. 自然教育園内の真正蜘蛛類. 自然教育園報告, (6): 33-35.